

記入例

大阪府教育センター
支援教育推進室

〔目次〕

○ 例 A（知的障がいのある子どもを中心として）

● A-1 「個別の教育支援計画」	1
● A-2 「個別の指導計画」	3
● A-3 「学習指導案」	
(1) 単元の目標	7
(2) 単元の評価規準	8
(3) 単元の指導と評価の計画	9
(4) 本時の目標と評価規準	
ア 学習グループ全体に対して	9
イ 個別に対して	10
(5) 本時の学習過程	10
● A-4 評価	12

○ 例 B（肢体不自由のある子どもを中心として）

● B-1 「個別の教育支援計画」	14
● B-2 「個別の指導計画」	16
● B-3 「学習指導案」	
(1) 題材の目標	18
(2) 題材の評価規準	19
(3) 題材の指導と評価の計画	19
(4) 本時の目標と評価規準	
ア 学習グループ全体に対して	19
イ 個別に対して	20
(5) 本時の学習過程	20
● B-4 評価	23

個別の教育支援計画

〇〇立〇〇〇支援学校

生徒名	A (中学部 2年)	生年月日	平成**年**月**日
保護者名	** ** ** *	記載者	** ** ** *
住所・連絡先	** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** *	記載日	平成**年**月**日

障がい等に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> 療育手帳B2 この場面ではこうしなければならないという思いを強く持っている。相手に対して自分の気持ちや要求を言葉で伝えることに苦手意識があり、気持ちをため込む傾向がある。感情が高ぶると衝動的に行動することがある。大きな声の喃語など、本人にとって理解できない声が苦手である。でんぷん糊や粘土など、粘性のあるものが手につくことを極端に嫌う。 				
本人及び保護者の希望（ニーズ）	将来の生活についての希望（3年、6年後、卒業後の生活について 等） 【本人】 友達に自分の思っていることを伝えて、もっと一緒に活動したい。 【保護者】 安定した学校・日常生活が送れるよう、自分の気持ちを相手に伝える力を身に付けてほしい。友達と遊べるようになってほしい。				
	生かしたいよさ（特性）、興味・関心について 等 <ul style="list-style-type: none"> 漫画・アニメ・ドラマ・映画・音楽・お笑い等、興味関心の幅が広く、高い集中力を発揮できる。本人が興味のあることを活動に取り入れ、積極的な参加を促すとともに、友達とのつながりを作るための架け橋にしてほしい。 				
関係機関との連携協力・支援ネットワーク	教育機関	福祉機関	医療機関	地域活動・家庭	その他（保健・労働等）
	機関名： 〇〇支援学校 担当・連絡先： 担任〇〇 連携・支援内容： 学校生活における指導・支援 記載日：〇月〇日	機関名： 〇〇市役所 担当・連絡先： 障害福祉課□□ 連携・支援内容： 福祉サービスの利用について 記載日：〇月〇日	機関名： 〇〇市民病院 担当・連絡先： 小児神経科△△ 連携・支援内容： 発達検査 発達相談 記載日：〇月〇日	機関名： 〇〇放課後デイ 担当・連絡先： 指導員◇◇ 連携・支援内容： 事業所における療育について 記載日：〇月〇日	機関名： 担当・連絡先： 連携・支援内容： 記載日：

長期的な視点（3年程度）からみた教育的ニーズと支援内容	
支援の目標（優先課題）	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちや要求を、その場面に合った言葉で表現できる。
支援の内容（手だて・配慮）	① 場面に応じた適切な言葉、特に気持ちや要求を伝える言葉を即座に表現するのが難しいが、選択肢があると伝えたいことに近い言葉を選ぶことができる。また、メモやノート等に記述する時間を確保することで、場面に応じた言葉を表現できることもある。 【合理的配慮】 <ul style="list-style-type: none"> 伝えたいことをメモやノートに記述する時間を確保する。 気持ちや要求の表出が難しいときは、選択肢を提示する。

<p>支援の内容 (手だて・配慮)</p>	<p>② 気持ちや要求を相手に伝えられず、落ち着かなくなるときがあるが、一人になることで、落ち着くことができる。また、クールダウンできる場所が確保されていると本人が理解することで、気持ちの高ぶりを抑えることができる。</p> <p>【合理的配慮】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 一人になれる静かな場所を確保し、その旨を本人に伝える。
<p>評価 (成果、今後の課題、 引継事項 等)</p> <p>評価の実施時期：</p>	<p>「こんなときにはこんな言葉を」というパターンを多く獲得するとともに、相手に気持ちや要求を言葉で伝えることへの自信を身に付けるため、場面に応じた適切な言葉を考える機会を多く設定した。メモやノート、選択肢などの支援が用意されていることで安心して取り組み、気持ちや要求を言葉で表現することへの自信が付いてきた。親しい教員に対しては「〇〇したくない」「〇〇してほしい」など、気持ちや要求を言葉で表現できるようになった。仲の良い友達に対しても「〇〇したくない」や「〇〇したい」など、気持ちを表現できるようになったが、「〇〇してほしい」と要求することには、いまだ抵抗がある。今後も、場面に応じた適切な言葉を考える機会を設定し、場面の想定をできるだけ多方面に渡って展開していく。実際の場面での指導も行い、相手とのやりとりに対して、より自信が持てるようになることが課題である。</p> <p style="text-align: right;">(記載：平成**年*月*日)</p>

私は、以上の内容を了解し、確認しました。

平成**年 *月 *日 保護者名 (** ***)

個別の指導計画

生徒名	A (中学部 2年)	記載者	** ** **
		記載日	平成**年**月**日

1 実態把握

障がい等の状況	<ul style="list-style-type: none"> 療育手帳B2 ルールなどに対し、こだわりがある。 自分の思いや考えを伝えることに苦手意識がある。 感情が高ぶると衝動的に行動することがある。 聴覚過敏（機械音など）・触覚過敏（粘性のあるもの）の傾向がある。
日常生活面	<p>更衣・排泄・食事などは概ね自立しているが、靴紐やエプロンの紐を蝶結びすることが難しいので、支援が必要。自分の唾液が飛ぶのが嫌で、ほとんどの場面でマスクを着けている。マスクの紐が耳の後ろに食い込み、炎症を起こしている。でんぷん糊や粘土など、粘性のあるものが手につくことを極端に嫌う。毎日の入浴習慣が確立されておらず、また、入浴しても石鹸などを使わず、シャワーで流すだけのときがある。手洗い、うがいの定着に課題がある。</p>
学習面	<p>基礎的な漢字の読み書き、四則計算ができる。繰り下がりのある引き算、割り算の筆算に苦手意識がある。</p>
コミュニケーション	<p>相手の話を聞かず、自分の興味のあることを一方的に話すことがある。また、相手の問いかけに対して、自分の思いや考えをスムーズに言葉として伝えることが難しい。言いたいことをあらかじめメモやノートに書いたり、いくつかの言葉が提示されたりすれば、それを整理・選択して話すことができることもある。</p>
社会性	<p>この場面では「こうしなければならない」という思いを強く持っており、他者のルールを逸脱した行動を許せないことがある。相手に対して自分の気持ちや要求を言葉で伝えることに苦手意識があり、気持ちをため込む傾向がある。気持ちや要求を相手に伝えられず、落ち着かなくなるときがあるが、一人になることで、落ち着くことができる。また、クールダウンできる場所が確保されていると本人が理解することで、気持ちの高ぶりを抑えることができる。</p>
行動面	<p>時間の概念や感覚を正確に持っており、見通しを持って時間通りに行動できる。単調な作業において、集中力を維持し、継続して取り組むのが難しいが、説明や作業内容に対する理解力は高い。大きな声の喃語など、本人にとって理解できない声が苦手であり、興奮することがあるが、静かな場所で気持ちを教員に伝えることで切りかえることができる。</p>
生かしたいよさ	<p>様々な物事に対して興味・関心の幅が広く、高い集中力を発揮できる。休み時間などに、興味のある多様なキャラクターが登場するオリジナルの漫画を描いており、絵を描くことに自信を持っている。興味のあるアニメやドラマ・映画などの場面を覚え、セリフや動きを演じて再現することができる。音楽やダンスが好きで、体を大きく動かし、リズムよく踊ることができる。お笑い番組をよく見ており、気に入ったギャグやネタを再現できる。</p>

2 指導計画

教科・領域名 [自立活動]

長期目標	・ 支援が必要なときに、言葉による意思表示ができる。
------	----------------------------

【2学期】

短期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場面に応じた適切な言葉を使って、ロールプレイを行うことができる。 ・ 困った状況になったとき、自分から周囲に支援を求めることができる。
------	--

内容・方法	<p>【学習内容】 <選定された項目></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 3 人間関係の形成 (3) 自己の理解と行動の調整に関すること </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 6 コミュニケーション (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること </div>	<p>【指導方法】</p> <p>① 会話が要求される場面や困ったことに遭遇した場面など、支援を必要とするケースを提示する。必要があれば自分の考えをメモにまとめるよう促す。自分の考えを整理するのが難しいときや場面に応じた言葉が分からないときは選択肢を提示する。</p> <p>② 作業工程に不備な点（部品の過不足や異なった部品の混入）を作り、発言の機会を作る。黙って待っていたら、「どうしましたか」と発言を促し、自分から発言するまではできるだけ待つようにする。</p>
	<p>① 設定された場面（学校生活の中や日常生活）にふさわしい言葉を考え、ロールプレイをする。</p> <p>② 作業学習などの際に、トラブル（部品が足りない、部品が余るなど）が発生したら「○が足りません」などと言う。 どうしてよいか分からないときは「分かりません」「どうすればよいですか」と質問する。</p>	

評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場面に応じた適切な言葉を考え、表現しようとしている。 ・ 分からないことなどがあつたときに、教員や周りの友達に声をかけている。
------	--

評価	<p>① 自分でその場にふさわしい言葉をロールプレイ中に即断して演じることはできなかったが、まずは自分の考えをメモにまとめることで、適切な言葉を使って演じることができた。</p> <p>② 部品の不足で作業が続けられないときはすぐに報告し、支援を求めることができたが、余るときはそのままにしていることが多かった。「そんなときはどうするのかな？」と声をかけるとロールプレイを思い出し、報告できた。</p> <p style="text-align: right;">(記載：平成**年**月**日)</p>
----	--

長期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話の要点を落とさないように聞き取ることができる。 ・ 目的や場に応じた言葉遣いを理解する。
------	--

【2学期】

短期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き取るべき内容の項目を確認しながら必要な情報を聞き取ることができる。 ・ 丁寧語を理解し、必要に応じて使用できる。
------	---

内容・方法	<p>【学習内容】</p> <p>① 電話の学習の際に、頼まれた伝言を、ワークシートの項目に沿って聞き取り、メモを取る。</p> <p>② 販売演習の際に、商品を用意するのに必要な情報を理解し、買い手からの注文を聞き取る。</p> <p>③ 販売演習の際に、丁寧語を用いて、接客を行う。</p> <p>④ 常体の文を敬体(丁寧語)の文に書き換えるプリント学習に取り組む。</p>	<p>【指導方法】</p> <p>① 校内の内線電話を使用し、相手の顔が見えない状態で取り組み、言葉だけが頼りとなるようにする。</p> <p>② 商品を用意するのに必要な情報を一覧で示し、確認しながら聞き取りができるようにする。必要があればメモを取るよう促す。</p> <p>③ 丁寧語が含まれた接客の定型句を示し、繰り返し練習し、定着するようにする。</p> <p>④ 簡単な問題から繰り返し取り組めるようプリントを用意する。</p>
-------	--	--

評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き取るべき内容の項目を確認しながら、伝言や注文を聞き取り、対応している。 ・ 丁寧語を適切に使い、話したり書いたりしている。
------	--

評価	<p>① 電話での会話に慣れないうちは聞き漏らしがあったり、聞き直しをせず電話を切ったりしていたが、慣れるにつれ、ワークシートの項目に沿って聞き取り、情報が不十分な際は、質問や確認をすることができた。</p> <p>② メモを取ることなく、注文を正確に聞き取り、対応できる場面もあった。友達の注文の内容が不十分であったり、聞き取れなかったりした際は、戸惑い、情報を求めることができていなかったが、教員が買い手の一員となり情報の不十分な注文をした際は、落ち着いて、必要な情報を求めることができた。</p> <p>③ 丁寧語が含まれた文を繰り返し声に出すことで、言葉遣いが定着し、丁寧語を用いて接客ができた。</p> <p>④ 繰り返し取り組み、丁寧語への書き換え方の傾向をつかむことで、概ね書き換えができるようになった。</p> <p style="text-align: right;">(記載：平成**年**月**日)</p>
----	--

長期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「長さ・重さ・かさ」の単位が分かり、適切な方法で測定できる。 ・ 金銭の使い方に慣れ、簡単なおつりの計算が暗算できる。
------	--

【2学期】

短期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な物の「長さ・重さ・かさ」の測定ができる。 ・ 金銭の使い方に慣れ、電卓でおつりの計算ができる。 ・ 2桁－1桁の繰り下がりの引き算が正確にできる。
------	--

内容・方法	<p>【学習内容】</p> <p>① 「1mものさし・電子はかり・計量カップ」を用い、指定された量の「ひも・油粘土・水」を量り取る。</p> <p>② 買い物学習や販売演習で、おつりの計算を電卓で行う。</p> <p>③ 2桁－1桁の繰り下がりの引き算の問題プリントに取り組む。</p>	<p>【指導方法】</p> <p>① 測定を正確に行うポイントを図で示すとともに、販売演習を通して、量り売りしている身近な物と関連付けるよう促す。</p> <p>② 実物に近い模擬貨幣を用いることで、金銭の扱いに慣れるようにする。</p> <p>③ 簡単な問題から繰り返し取り組めるようプリントを用意する。</p>
-------	---	---

評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適切な測定方法で、指定された量の「ひも・油粘土・水」を量り取っている。 ・ 代金と支払われた金額からおつりを電卓で計算し、おつりを買い手に手渡している。 ・ 2桁の繰り下がりの引き算の問題を9割以上正答している。
------	--

評価	<p>① ものさしや計量カップなど数値をアナログで読み取る必要があるときは、正確さに欠ける測定をすることもあったが、数値がデジタルで表示される電子はかりの測定は1g単位で正確に行うことができた。</p> <p>② 購入商品が2点になると、電卓での計算方法が分からなくなることがあったが、購入商品が1点の場合は、電卓を用いることで、おつりの計算が正確にできた。支払われた金額から商品の代金を1つずつ減算する方法、商品の合計代金をまず出してからおつりを計算する方法を身に付けることが今後の課題である。</p> <p>③ 落ち着いて時間をかけて取り組むことで、9割以上正答できるようになった。今後は2桁－1桁の問題にも引き続き取り組みつつ、2桁－2桁の繰り下がりのある引き算にも取り組む。</p> <p style="text-align: right;">(記載：平成**年**月**日)</p>
----	--

「国語・数学」学習指導案

単元とは、子どもの学習過程における学習活動の一連の「まとめ」であり、学習活動に明確な順序性（計画-準備-展開-まとめ）がある。題材とは、学習活動のまとめであるが、単元のように学習活動に明確な順序性があるわけではない。

〇〇立〇〇〇支援学校

指導者 T1: *** **

T2: *** **

T3: *** **

ガイド P.9

(1) 単元(題材)の目標の設定

* 現行の特別支援学校中学部学習指導要領〔国語〕の目標及び内容、〔数学〕の目標及び内容を踏まえて設定

1. 日時 平成〇年〇月〇日 (〇) 第〇時限 (〇:〇 ~ 〇:〇)

2. 場所 多目的室

3. 学部・学年・組 中学部 第2学年 (D・Eグループ) 16名

4. 単元名 「量り売りをしよう」

5. 単元目標

- (1) 「長さ・重さ・かさ」の測定方法を理解・活用して商品を用意できる。
- (2) 料金表から量に応じた金額を読み取り、代金やおつりの計算をして販売できる。
- (3) 接客の基礎的な知識を理解し、買い手の注文の内容から必要な情報を適切に聞き取り、売り手として適切な言葉遣いや態度で対応できる。

6. 生徒観

本校中学部第2学年は、課題別にA・B・C・D・Eの5つのグループに分かれている。本単元はD・Eグループが合同で行う授業である。本グループの生徒は、日常生活面においては概ね自立しており、将来的には就労をめざしていくと考えられる生徒集団である。学習面においては、常用漢字程度を読み書きできる生徒から漢字の読み書きに困難がある生徒、分数の計算ができる生徒から繰り下がり引き算に課題のある生徒など、個々の到達度には差がある。また、机上で学習したことを日常生活に応用することが難しい生徒が多いため、基礎学習に加え、実際の場面に即した体験的な学びが必要である。

コミュニケーションや人間関係の形成に課題のある生徒が多く、自分の気持ちを表現するのが難しい生徒、相手の心情を考えるのが難しい生徒、失敗を恐れて初めてのことに取り組むのが苦手な生徒、できないことを周りに知られたくないため活動に消極的な生徒など、様々である。生徒が学習に向かうよう、環境の整備と個々の気持ちに寄り添うことが重要である。

7. 教材観

本単元は国語と数学とを合わせて指導する形態をとる。

D・Eグループではこれまでに数学で「長さ・重さ・かさ」「金銭の扱い」を、国語で「言葉遣い」の学習をしてきた。それぞれの学習において、基礎的な内容は理解できているが、日常生活に根ざして活用できる知識とは言い難い。例えば、金銭の弁別や計算はできるが、買い物は難しいなどである。そこで、これまでに学習した内容を複合的かつ体験的に活用する学習として商店による販売演習を設定した。それぞれの店では注文された量に応じて測定をし、商品を用意する量り売りの形式で演習を行う。量り売りは、商品の測定、料金表の読み取り、おつりの計算等、接客の一連の流れの中で知識を活用する場面が多くある。これまでに学んだ内容を日常生活に即した場面の中で繰り返し活用することで、より深く定着した知識にできると考える。

8. 指導観

単元の指導にあたって、これまで学習してきた「長さ・かさ・重さ」「金銭の処理」「言葉遣い」を活きた知識として定着させるため、生徒が主体となって活動する場面を多く設定する。

第一次では、既習事項の復習を中心に行う。「長さ・かさ・重さ」においては、例えば「100gの粘土を3分以内で一番たくさん作れるのは誰だ」や「ものさしを使わずに50cmに一番近いひもを取れるのは誰だ」など、ゲーム感覚で単位の知識と道具の使い方を復習することで、今後の学習に対する興味関心を引き出すとともに、「長さ・重さ・かさ」の感覚を養うことを目的とする。「言葉遣い」においては、接客用の台本を用いてロールプレイを行い、基本的な接客の流れと定型句を習得することで、自信を持って接客ができるよう促す。

第二次では、「長さ・重さ・かさ」の量り売りについて、注文を受けてからお釣りを渡すまでの一連の流れについて学習する。商品の測定においては、正確な測定法とともに、素早く商品を用意するための効率の良い測定法を工夫するよう促す。料金表の読み取りにおいては、単に料金表から注文された量に応じた代金を読み取る力を養うだけでなく、商品を数点扱い、例えば○の商品50gと□の商品30gを量り売りするなど、複数の注文に対応する力を養う。生徒全員が各店の売り手を行い、注文を受ける際にメモが必要な生徒、代金やおつりの計算の際に電卓が必要な生徒など、それぞれが売り手となる際に必要な道具の使い方を身に付けるよう促す。

第三次では、班別での活動を中心に授業を進める。1班5、6人で3班作り、「長さ」を量り売りする店、「重さ」を量り売りする店、「かさ」を量り売りする店をそれぞれの班で担当する。店で扱う商品・店の名前を班で考え、看板・メニューを作成することで、班で協力して店を運営する責任感を持たせたい。

接客の際は、販売員という立場・役割になりきり、丁寧語を中心とした言葉遣いを意識して対応するように促す。買い手の際は言葉遣いに特に制限をかけず、売り手のときと買い手のときで言葉遣いに対する意識がどのように違うかを考えさせる機会を設定し、コミュニケーション力や人間関係を形成する力につなげたい。

9. 単元の評価規準

ガイド P.10
**(2) 単元(題材)の
 評価規準の設定**
 *表記については、**ガイドP.11**
 を参照

A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 技能	D 知識・理解
① 身近な物の「長さ・重さ・かさ」の量の大小を比べようとしている。	① 量に応じて効率の良い測定方法を選択している。	① 「長さ・重さ・かさ」の測定方法を活用して商品を用意できる。	① 「長さ・重さ・かさ」の測定方法を理解している。
② 日常の買い物と結び付けようとしている。	② 料金表から量に応じた金額を読み取っている。	② 代金やおつりの計算をして販売できる。	② 代金やおつりの計算の方法を理解している。
③ 販売員としての役割を意識して対応しようとしている。	③ 買い手の注文の内容から必要な情報を適切に聞き取っている。	③ 売り手として適切な言葉遣いや態度で対応できる。	③ 接客の基礎的な知識を理解している。

ガイド P.12

(3) 単元(題材)の指導と評価の計画

10. 単元の指導と評価の計画 (全15時間、本時は第13時)

次	時	学習内容	評価規準			
			A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 技能	D 知識・理解
第一次	1-2	「長さ・重さ・かさ」を用いたゲーム	①			①
	3-4	接客の基礎				③
第二次	5-6	「重さ」を用いた量り売り		①		②
	7-8	「長さ・かさ」を用いた量り売り		②③		
第三次	9-10	商店の作成	②			
	11-12	販売演習 1	③		①	
	13-15	販売演習 2			②③	

ガイド P.13

(4) 本時の目標と評価規準
 <学習グループ全体に対して>

11. 本時の展開 (第13時)

(1) 本時の目標

- (ア) 複数の購入商品の合計金額を計算し、受け取った金額からおつりの計算をして販売できる。
- (イ) 商品を用意するうえで必要な情報を理解し、買い手に対し、適切な言葉遣いや態度で必要な情報を要求できる。

(2) 本時の評価規準

- 【C②】電卓を活用し、2点の購入商品の代金やおつりの計算を正確に行い販売できる。
- 【C③】買い手の注文の内容が不十分であったり、聞き取れなかったりした際に、「牛肉200gと、豚肉は何g必要ですか」等、売り手として適切な言葉遣いや態度で必要な情報を要求できる。

(3) 本時で扱う教材・教具

- 全体：模擬紙幣貨幣、電卓、PC、モニター
- 長さの店（電気屋）：1mものさし、ひも、看板、メニュー・料金表
- 重さの店（肉屋）：電子はかり、油粘土、看板、メニュー・料金表
- かさの店（ドリンクショップ）：計量カップ、じょうご、1ℓペットボトル、看板、メニュー・料金表

(4) 生徒の実態と本時の目標

ガイド P.14

(4) 本時の目標と評価規準
〈個別に対して〉

*例では、生徒A についてののみ記載

◎「個別の指導計画」に基づいて自立活動の指導との関連づけを図り、個別の目標を設定

	生徒の実態	本時の目標	支援の手だて	評価規準
A	「長さ・重さ・かさ」の測定が概ねできる。繰り下がりのある引き算に苦手意識がある。自分の気持ちを言葉で相手に伝えることに苦手意識があり、困っていることを伝えることが難しい。アニメ等のキャラクターになりきり、セリフを流暢に言うことができる。手に汚れがつくことを極端に嫌う。	(ア) おつりの計算が正確にできる。 (イ) 商品を用意するうえで必要な情報を理解し、買い手に対し、適切な言葉遣いや態度で必要な情報を要求できる。	・繰り下がりの引き算に対する苦手意識を軽減するため、金額の計算をする際は電卓を使用するよう促す。 ・商品を用意するのに必要な情報を一覧で示し、確認しながら聞き取りができるようにする。必要があればメモを取るよう促す。 ・肉屋で売り手をする際は、ビニール手袋を用意し、油粘土で手が汚れないよう配慮する。	【C②】売り手の際、電卓を活用し、受け取った金額からおつりを正確に計算できる。買い手の際、受け取ったおつりの確認を正確に計算できる。 【C③】買い手の注文の内容が不十分であったり、聞き取れなかったりした際に、売り手として適切な言葉遣いや態度で必要な情報を要求できる。
	<p>〈関連する自立活動の内容〉</p> <p>3 人間関係の形成 (3) 自己の理解と行動の調整に関すること</p> <p>6 コミュニケーション (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること</p>	◎困った状況になったとき、落ち着いて考える時間や作業する時間が欲しいことを相手に伝えることができる。	・自発的に発言することが難しい場合は、発言を促すような言葉がけをする。	◎落ち着いて考える時間や作業する時間が欲しいときに「少々お待ちください」と伝えることができる。

(5) 本時の学習過程

ガイド P.15

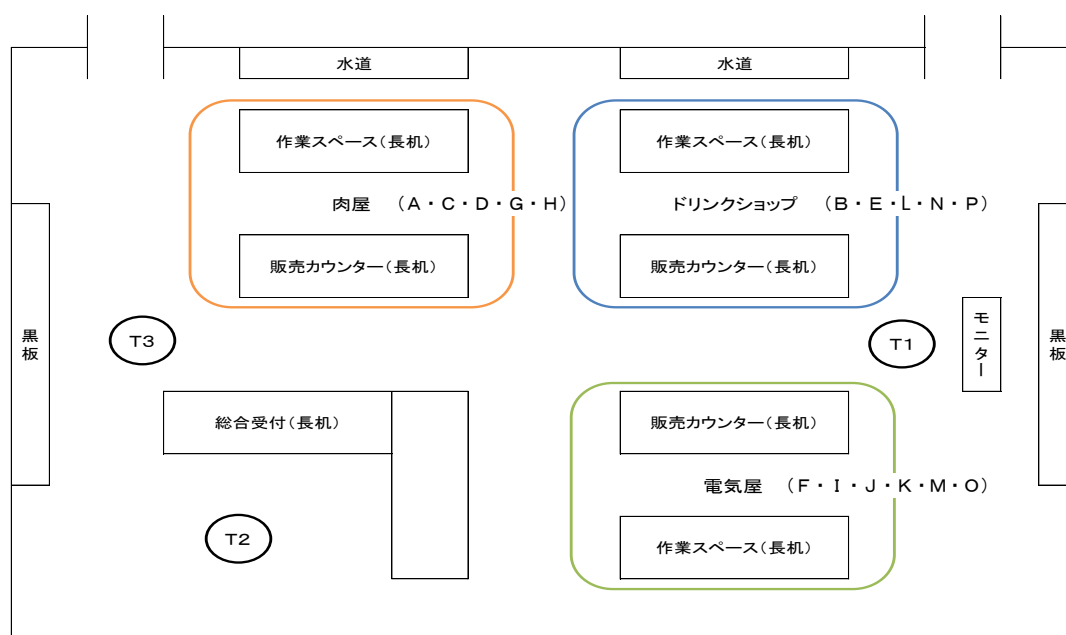
(5) 本時の学習過程
〈学習内容・学習活動〉
〈指導上の留意点及び支援の手だて等〉

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準（評価方法）
10分	○始まりの挨拶をする。		
導入	○本時の学習内容を知る。 ○接客のための声出しの練習をする。 ○商店の準備をする。	・本時の目標、学習活動の流れを確認する。 ・接客の定型句を群読できるよう定型句をモニターに表示する。 ・明朗快活に発音するよう促す。 ・準備物の一覧を配付し、各店の班で必要なものを協力して準備するよう促す。	

ガイド P.16
 (5) 本時の学習
 過程
 <評価規準及び
 評価方法>

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び 支援の手だて等	評価規準（評価方法）
30分 展開	○販売演習をする。 ・各班で売り手2名と買い手3～4名を決め、販売演習をする。 (約10分間×3)	・販売演習の流れをモニターに表示し、演習のポイントを確認できるようにする。 ・計3タームの販売演習で全員が売り手を経験するよう促す。 ・教員が買い手の一員となり、情報の不十分な注文をすることで、生徒が対応を考えるような場面をつくる。	・【C②】(行動の観察) ・【C③】(行動の観察)
10分 まとめ	○商店の片付けをする。 ○本時の学習の振り返りをする。 ○次時の学習予定を聞く。 ○終わりの挨拶をする。	・各班で協力して担当の商店を片付けるよう促す。 ・ワークシートを配付し、本時の目標に対する「自分の良かった点」「友達の良かった点」を記入するよう促す。 ・各班より発表者を指名する。	

(6) 教室配置等



◆ 学習評価について

<学習状況の評価>

● グループ全体について

(ア) 購入商品が1点の場合は、代金やおつりの計算ができていたが、購入商品が2点になると、電卓での計算方法が分からなくなる生徒が数名いた。(誤例：受け取った金額－商品①＋商品②)

日常的に買い物をしている生徒は、電卓を使用せず、暗算をして即座におつりを返すことができていた。

(イ) 毎時間、導入の接客の声出しで言葉遣いを反復してきたため、売り手として適切な言葉遣いや態度が身に付いてきた。積極的に買い手を呼び込む姿勢も多く見られ、中には、おすすめの商品を設定して紹介する生徒も見られた。情報の不十分な注文への対応については、教員が買い手の場合はほとんどの生徒が落ち着いて対応できたが、友達が買い手の場合は戸惑い、適切な言葉遣いや態度で対応できない生徒もいた。

● Aさんについて

(ア) 購入商品が2点になると、電卓での計算方法が分からなくなることもあったが、購入商品が1点の場合は、電卓を活用し、おつりの計算が正確にできていた。買い手の際も、返ってきたおつりが合っているか確認するよう指示をしたが、レシートなどが無い状態で、渡した金額・商品の代金・おつりの3つの数字を記憶しておく必要があるので、分からなくなっている様子が見られた。

(イ) 友達の注文の内容が不十分であったり、聞き取れなかったりした際は、戸惑い、適切な言葉遣いや態度で対応できていなかったが、教員が買い手の一員となり情報の不十分な注文をした際は、落ち着いて、適切な言葉遣いや態度で必要な情報を求めることができた。

◎ 商品の準備やおつりの計算に時間がかかりそうな際、買い手に対して「少々お待ちください」と伝えることができた。伝えた後、自力で解決できる場合とそうでない場合があったので、自力で解決できそうにないときは教員に支援を自分から求めるのが次の課題である。

<授業の評価>

・ 販売演習1では購入する商品は1点としていたが、販売演習2では購入する商品を2点までとした。多くの生徒が電卓を活用し、代金やおつりの計算ができていたが、事前に電卓の使い方を徹底していなかったため、誤った計算をしてしまう生徒が数名見られた。第一次において、金銭の処理のみを扱う授業の設定が必要であった。

・ 情報の不十分な注文への対応について、教員が買い手の場合はほとんどの生徒が落ち着いて対応できたが、友達が買い手の場合は戸惑っている生徒が数名いた。相手によらず対応できるように「〇〇のときは△△する」といった対応の型を提示し、販売演習の前に確認できるような機会を設定していきたい。

◆ 評価をもとに、どのように指導改善を図るか（次時への改善点 等）

- ・ 商品が2点ある際の代金の処理を誤ってしまう生徒が数名いたため、商店の準備が整った後の展開の初めに電卓の使用方法を確認する。
- ・ 「困ったときの対応マニュアル」を作成し配付するとともに、導入の「接客の定型句」と合わせて群読する。

個別の教育支援計画

〇〇立〇〇〇支援学校

生徒名	B (高等部 2年)	生年月日	平成**年**月**日
保護者名	** ** ** *	記載者	** ** ** *
住所・連絡先	** ** ** ** ** ** ** ** ** *	記載日	平成**年**月**日

障がい等に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 痙直型四肢まひ 身体障害者手帳1種1級 療育手帳B1 ・ 電動車いすを使用。介助があればあぐら座位が可能。 ・ 長時間、車いすに乗ることは、体への負担が大きいため、定時に休養をとる。 ・ 食事等に好き嫌いはない。 ・ 介助があれば、スプーン（自助具）を使用し、自力で食べることができる。 ・ ストローでこぼさずに飲み物を飲む練習中で、コップから直接飲むと口からこぼれる。 ・ 利き腕は右。パソコン（支援機器）での文字入力（かな入力）が可能。 ・ 写真や動画が好きである。 ・ 周囲の様子をよく観察している。ゆっくりではあるが言葉（2～3語程度）で周囲に気持ちを伝えることができるが、泣くことで自分の要求を受け入れてもらおうとする場面もある。 ・ 何事も積極的に楽しもうとする気持ちがあるが、初めてのことには慎重で緊張が強くなる場面もみられる。
------------	--

本人及び保護者の希望（ニーズ）	<p>【本人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が好きな写真や動画を楽しむことを通して、他者とのコミュニケーションを図り、人とのつながりを広げていけるようにしたい。 ・ 卒業したら、仕事がしたい。 <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 困ったときに自ら相手に支援を求められる力を付けてほしい。 ・ 感情表現の語彙を増やしてほしい。 ・ 卒業後の就労や生活を見据え、様々な作業に取り組む経験を増やしてほしい。 ・ 様々な経験を積むことで自信を持ってほしい。
-----------------	---

	教育機関	福祉機関	医療機関	地域活動・家庭	その他（保健・労働等）
関係機関との連携協力・支援ネットワーク	機関名：〇〇支援学校 担当・連絡先：担任〇〇 連携・支援内容：学校生活における指導・支援 記載日：〇月〇日	機関名：〇〇市役所 担当・連絡先：障害福祉課□□ 連携・支援内容：身障手帳申請 装具等の相談 記載日：〇月〇日	機関名：〇〇病院 担当・連絡先：小児科◆◆Dr 整形◇◇Dr 連携・支援内容：定期通院(1/3月) 記載日：〇月〇日	機関名：△△写真サークル 担当・連絡先：代表△△ 連携・支援内容：定例撮影会参加 (2回/月) 記載日：〇月〇日	機関名：□□事業所 担当・連絡先：担当〇〇 連携・支援内容：卒業後の就労先候補として見学 記載日：〇月〇日

長期的な視点（3年程度）からみた教育的ニーズと支援内容	
支援の目標（優先課題）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲への適切な意思表示の方法を学び、多くの人との交流ができるようになる。
支援の内容（手だて・配慮）	<p>① 初対面や関わりの少ない人に対しては、心理的・身体的緊張が強くなるが、カード（ことば・絵）を用いて自分の気持ちを示すことができる。信頼関係が築ければ、自分から言葉（2～3語程度）で気持ちを伝えることができる。</p> <p>【合理的配慮】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本人が安心してリラックスできる雰囲気の中で、信頼関係のある人と一緒に活動する場面を設定する。 ● 言葉での表出が難しい時は、カード（ことば・絵）を使用してコミュニケーションをとるよう促す。

<p>支援の内容 (手だて・配慮)</p>	<p>② 初めてのことに臨む場面は、活動の見通しが持てるとスムーズに活動できる。また認知面では、視覚優位のため視覚支援が有効である。 【合理的配慮】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 活動への見通しが持てるように、写真やカード（ことば・絵）を使用しながら、指導・支援を行う。
<p>評価 (成果、今後の課題、 引継事項 等)</p> <p>評価の実施時期：</p>	<p>* 高等部2年生の学年末に実施予定</p> <p style="text-align: right;">(記載：平成 年 月 日)</p>

私は、以上の内容を了解し、確認しました。

平成 年 月 日 保護者名 ()

個別の指導計画

生徒名	B (高等部 2年)	記載者	** ** **
		記載日	平成**年**月**日

1 実態把握

障がい等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 痙直型四肢まひ ・ 1歳3か月でてんかん発作。服薬を開始し、現在も通院と服薬を継続。現在は脳波の異常はあるが、8歳9か月を最後にてんかん発作はない。 ・ 日常生活でよく使用する言葉については理解しているが、表出することが難しい場面がある。
日常生活面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電動車いすを使用。トイレや車いすからの移乗は介助が必要。介助があればあぐら座位が可能。利き腕は右。 ・ スプーンや食器（本人用の自助具）を使用することで固形物やご飯を自分で食べることができる。麺類等は短く切った状態が食べやすい。 ・ 介助があれば、タブレット端末に搭載されたカメラやビデオの機能を使って、好きな写真や動画の撮影ができる。
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書字は難しいが、パソコンを使ったかな入力が可能。（小学校5年生までの漢字が読める） ・ 簡単な四則計算ができる。 ・ 文章題は問題の意味を説明すると理解できることが多い。 ・ 図形の概念がある。
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初対面の人や関わりの少ない人には、緊張が強くなり、言葉によるコミュニケーションが難しく、カード（ことば・絵）によるコミュニケーションとなることが多い。 ・ 関係性があり、慣れた人に対しては、自分から言葉（2～3語程度）で気持ちを伝えることができる。
社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周りをよく見ており、周囲の人への関心はあるものの、話ができる友達は限られている。自分から積極的に関わろうとする様子はあまり見られない。 ・ 自分の要求を受け入れてもらえない場面では、泣くこともある。
行動面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何事も積極的に楽しもうとする気持ちがある。初めてのことには慎重で緊張が強くなる場面もみられるが、慣れれば積極的に取り組むことができる。 ・ 屋外での活動が好きで、地域の祭りや公園の風景写真を撮影することが好きである。最近では近くの港に行き、家族やヘルパーと一緒に船の動画を撮影することが本人のお気に入りである。ただ、写真や動画は本人が楽しむことが主で、他者と共有することはほとんどない。
生かしたいよさ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見通しを持つことができると、何事にも積極的に活動しようとする。 ・ デジタルカメラ、パソコンの支援機器を活用して、生活を楽しみ、充実させることができる。

2 指導計画

教科・領域名〔 自立活動 〕

長期目標	・ 自分自身の状況や要求を的確に他者に伝えることができる。
------	-------------------------------

【 1学期 】

短期目標	・ 自分の意思や考え、要求を周囲の人に理解される方法を身に付け、できるだけ多くの人との交流ができるようになる。	
内容・方法	<p>【学習内容】</p> <p><選定された項目></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>3 人間関係の形成 (1) 他者とのかわりの基礎に関する こと</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>6 コミュニケーション (2) 言語の受容と表出に関すること</p> </div> <p>① カード（ことば・絵）を活用しつつ、言葉を併用しながら自分の意思や考え、要求等を相手に伝えることができる。</p> <p>② 自分から言葉による、元気のよい挨拶ができる。</p> <p>③ カードや言葉で、意思や考え、要求等を伝えることを通して、積極的に人と関わるようになる。</p>	<p>【指導方法】</p> <p>① 活動前にカード（ことば・絵）と言葉を使って自分の意思や考え、要求等をするよう、意識づける言葉をかける。</p> <p>② 卒業後の進路を意識させた上で、言葉による挨拶をするよう促し、場面によっては、できるまで待つ時間をとる。</p> <p>③ 意思や考え、要求等を一方的に伝えるだけではなく、カードや言葉を通して、相手と楽しくやりとりができるよう、手本を示す。</p>
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームルームや授業で、カードや言葉での意見発表によって、自分の意思や考えを友達や教員に伝えている。 ・ 自分から言葉を用いて元気のよい挨拶をしようとしている。 ・ 自分の意思や考え、要求等を伝えながら、相手と会話しようとしている。 	
評価	<p>① 周囲の人に慣れてきたこともあり、カードと言葉による発表よりも、少しずつ言葉だけで伝えようとする場面が増えてきた。</p> <p>② 本人の進路に対する意識の高まりもあって、少し緊張しつつも、自分から元気よく挨拶しようとする姿がみられることが多くなった。</p> <p>③ 積極的に自分の意思や考え、要求等を伝えるようとしているが、言葉のみのやりとりは、まだ考え込んで消極的になってしまう場面もある。今後も継続した指導・支援が必要である。</p> <p style="text-align: right;">(記載：平成**年**月**日)</p>	

「自立活動」学習指導案

単元とは、子どもの学習過程における学習活動の一連の「まとめ」であり、学習活動に明確な順序性（計画-準備-展開-まとめ）がある。題材とは、学習活動のまとめであるが、単元のように学習活動に明確な順序性があるわけではな

〇〇立〇〇支援学校
 指導者 T1 : *** **
 T2 : *** **
 T3 : *** **

ガイド P.9

(1)単元(題材)の目標の設定

* 現行の特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編を参考に設定

1. 日時 平成〇年〇月〇日 (〇) 第〇時限 (〇 : 〇 ~ 〇 : 〇)
2. 場所 第2学年〇組 教室
3. 学部・学年・組 高等部 第2学年 (〇組) 5名
4. 題材名 「ホームルームをしよう」
5. 題材目標 (1) 一日の生活に見通しをもち、活動に期待感を持つことができる。
 (2) 集団の中で、自信をもってコミュニケーションを図ることができる。
 (3) 日直としての役割を理解し、場面に応じた行動ができる。

6. 生徒観

本学級の生徒は、情緒面や行動面に関しては、比較的安定しており、朗らかで明るく、穏やかな雰囲気の中で学級である。車いすを使用する生徒が3名、他の2名も歩行や立位には支えや注意が必要であり、一人はクラッチを使用している。全員が学校生活の場面でよく使用される言葉の意味について理解している。簡単な言葉や身振り、絵カード、あるいは表情、視線、うなずき等、自分なりの表出方法でコミュニケーションをとろうとしている。

また、学習面や生活面においては、何事にも前向きな姿勢で取り組もうとする姿勢がうかがえる。一方で、初めてのことや新しい活動（環境）に対しては、心身ともに緊張や不安感が強くなり、自分の持っている力をうまく発揮して活動することが難しい生徒も多い。

4月からのHR活動においても、新しい人間関係の中で挨拶をする場面や自分の思いや考えを相手に伝える場面では、思春期であることや自信のなさ等から自発的な行動が少ないように見受けられる。特に挨拶については、挨拶が他者との関係づくりの入り口であるという認識を十分に持たせておらず、課題であると感じてきた。

7. 教材観

ホームルーム活動は、挨拶、呼名、日付確認、日程確認、「今日の1枚」と題した写真観賞のコーナー等の活動で構成している。中でも一日のスタートとなる挨拶は、学校生活において授業や活動の区切りを意識づけるために大切であると考え。生徒が自信を持って挨拶できるような環境設定を工夫したい。友達を意識して共に声や視線等を合わせて挨拶しようとする姿勢を身に付けることで、協調性を養うことにもつながりたい。また、卒業後を見据えたためず生徒像を考えたとき、自分から進んで挨拶できることは、社会を構成する一人として自立した生活を送るためには欠くことのできない力と考える。姿勢が崩れやすい生徒については、自ら姿勢を正すことを意識して気持ちを切り替える機会にしたい。

日直は輪番制で呼名や日付確認、日程確認等を行う。毎週同じ内容で行うことで、次にどのような活動をするのか見通しを持ち、自信を持って意欲的に活動に取り組めると考える。「今日の1枚」のコーナーでは、現在の社会的事象に注目し、その内容に触れる機会として設定している。新聞等に掲載されている写真を中心にしながら、リラックスした雰囲気の中で自由に感じたことを表現できる場の設定を工夫している。

8. 指導観

一人ひとりの生徒の主体性を尊重しながら、挨拶や呼名の場面では、生徒が自主的に挨拶したり、返事をしたりできるように、言葉がけや教具の提示を行いたい。また、日直による呼名に対して、生徒が返事をした際は、教員も「はい、〇〇さん、今日も元気ですね」などと生徒からの表出を受け止めるようにしたい。

ホームルーム活動の流れは、生徒が自信や安心感を持って活動できるように、年間を通して大きく変化することがないようにしている。後半に設定している「今日の1枚」のコーナーでは、前半とは活動の色合いを変えた環境設定をし、のびのびとリラックスできる雰囲気の中で自由に楽しく活動ができるよう配慮したい。

これら一連の流れを通して、個々の課題を意識して、発語を促すことや、視線、表情、うなずき、身振り等の反応を引き出すとともに、カードの文字や絵を理解し、カードにかかれた文字や絵を指さしたり、カードを取ったりすることができるよう促す等、生徒の主体的な活動へとつながっていくように支援していきたい。

9. 題材の評価規準

ガイド P.10
(2) 単元(題材)の評価規準の設定

*表記については、ガイドP.11を参照

A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 技能	D 知識・理解
①友達や教員とのやりとりを楽しんでいる。 ②積極的に朝の会に参加しようとしている。	①友達に対して、自分なりの表出方法で挨拶している。 ②写真に写っているのは何かを考え、答えている。 ③どうすれば朝の会を楽しく、スムーズに進行できるかを考えている。	①自分の名前が呼ばれたら、声を出したり、日直と手を合わせたりして、進んで返事をするができる。 ②場面や状況に応じて、スムーズに会の進行ができる。	①一日の活動を理解し、見通しを持っている。 ②日直としてのHR活動の進め方を理解している。

ガイド P.12
(3) 単元(題材)の指導と評価の計画

10. 題材の指導と評価の計画 (全35時間 本時は第15時)

時	学習内容	評価規準			
		A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 技能	D 知識・理解
1-5	・挨拶	①			
6-10	・日付確認	②			
11-15	・日程確認		①	①	
16-20	・写真観賞		②		①
21-25	・挨拶				②
26-30	・日付確認		③		
31-35	・つながりあそび			②	

11. 本時の展開 (第15時)

ガイド P.13
(4) 本時の目標と評価規準
<学習グループ全体に対して>

(1) 本時の目標

- (ア) 友達を意識しながら挨拶することができる。
- (イ) 呼名に応じて返事することができる。

(2) 本時の評価規準

- 【B①】 友達に対して、自分なりの表出方法で挨拶している。
- 【C①】 自分の名前が呼ばれたら、声を出したり、日直と手を合わせたりして、進んで返事することができる。

- (3) 本時で扱う教材・教具
- ・日付表示ボード、月日マグネットカード
 - ・日めくりカレンダー
 - ・時間割ボード、時間割マグネットカード
 - ・友達の顔写真カード
 - ・観賞用の写真等

(4) 生徒の実態と本時の目標

ガイド P.14

(4) 本時の目標と評価規準
〈個別に対して〉

* 例では、生徒 B についてのみ記載

* 自立活動の「個別の指導計画」を踏まえて設定

	生徒の実態	本時の目標	支援の手だて	評価規準
B	<p>学習の流れや状況をよく理解しているが、初めてのことは慎重になり、心理的な緊張と同時に身体の緊張も重なり、発語や活動がスムーズにできないこともある。リラックスした状態や雰囲気の中で、慣れた人であれば、カードを活用しながら言葉でも会話をすることができる。</p> <p>〈関連する自立活動の内容〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>3 人間関係の形成</p> <p>(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>6 コミュニケーション</p> <p>(2) 言語の受容と表出に関すること</p> </div>	<p>(ア) 友達の様子を見て、タイミングを合わせながら、朝の挨拶ができる。</p> <p>(イ) 自分の名前が呼ばれたら、言葉で元気よく返事をする事ができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達を見ながら、声を合わせて挨拶することを意識するよう促す。 ・事前に言葉で元気よく「はい」と返事することを意識できるよう言葉をかける。 	<p>【B①】声の大きさやタイミングに気をつけて「おはようございます」と挨拶している。</p> <p>【C①】名前を呼ばれたら日直を見て、言葉で元気よく「はい」と返事することができる。</p>

(5) 本時の学習過程

ガイド P.15

(5) 本時の学習過程

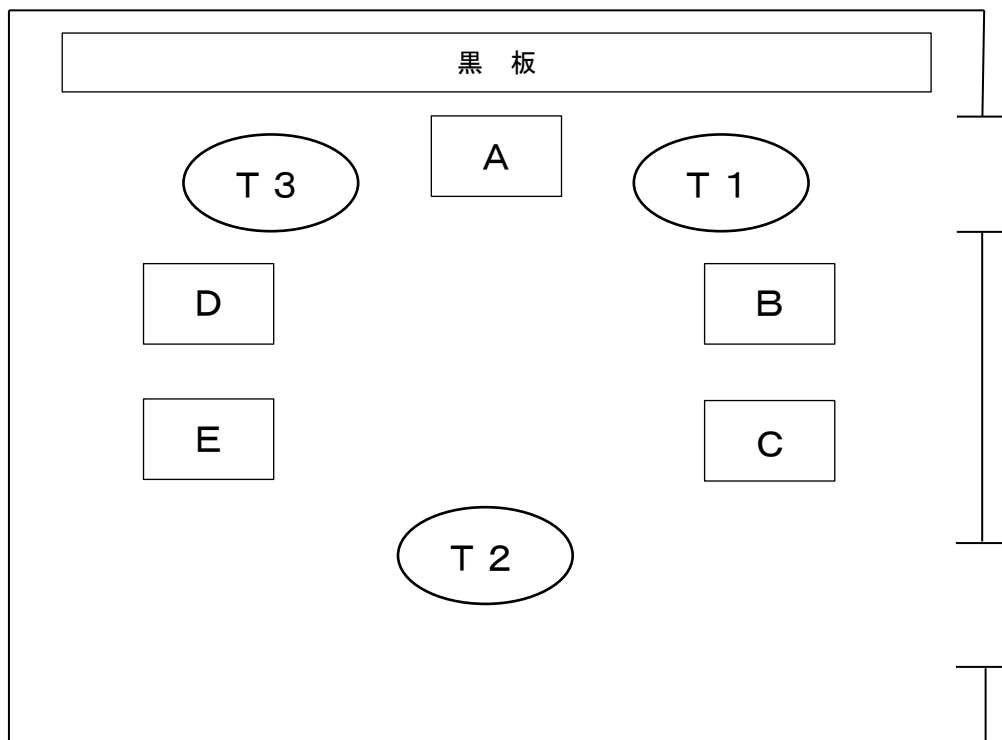
〈学習内容・学習活動〉

〈指導上の留意点及び支援の手だて等〉

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準
3分 導入	<p>○始まりの挨拶をする。</p> <p>○朝の挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の日直を確認する。 ・事前に、挨拶の際は日直の方を向き、呼びかけに応じて挨拶するよう言葉がけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【B①】(行動の観察)

ガイド P.16 (5) 本時の学習過程 <評価規準及び評価方法>	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準
	30分 展開	○出欠を確認する。 ・日直による呼名に対して返事をする。 ○日付の確認とカレンダーめくりを行う。 ○日程を確認する。 ○「今日の1枚」と題して写真観賞をする。 ・写真を見て、何が写っているのかを考え、発表する。 ・関連して知っていることがあれば自由に発表する。 ・写真の内容について知る。	・日直の方を見ながら、自分の番を待つよう言葉がけをする。 ・日直が、発語の難しい生徒である場合は、友達の写真カードを指さしたり、持ったりして示すよう促す。 ・生徒の返事に続いて、教員が「はい、〇〇さん、今日も元気ですね」と生徒の返事（行動）を受け止める言葉がけをする。 ・日直に、挙手した生徒の中から指名するよう促す。 ・生徒には、自発的に挙手できるような言葉がけをする。 ・日直が時間割カードをボードに貼れるように、時間割カードを準備し、机上に並べる。 ・ボードに注目するよう言葉がけをする。 ・何が写っているのかを考えて、分かったら挙手して発表するよう伝える。 ・発表している友達に注目するよう促す。 ・必要に応じて、イメージを膨らませられるような言葉がけをし、生徒からの表出を引き出す。 ・その他に気付いたことや知っていることがあれば自由に発表するよう促す。 ・発表内容を受けて、他の生徒の意見を引き出すような言葉がけをしたり、生徒同士で意見のやりとりができる場を設定したりする。 ・写真の内容について説明する。	・【C①】（行動の観察）
	2分 まとめ	○終わりの挨拶をする。	・日直の方に意識を向けるよう言葉がけをする。	

(6) 教室配置等



◆ 学習評価

<学習状況の評価>

● グループ全体について

(ア) 一人ひとりが友達を意識しながら、自分なりの表現方法で元気よく挨拶することができた。事前に全員で声を合わせて挨拶するように言葉がけをしていたこともあり、一人ひとりが互いに顔を見合わせながら表出する様子が見られた。これまでは学級として、生徒たちの集団としての意識や互いのつながりを実感できているという様子はあまり見られなかった。しかし、朝の挨拶を通して友達と声を合わせようとしたり、互いの顔を見てタイミングを合わせようとしたりするなど、少しずつ友達を意識しながら集団活動として取り組めるようになってきた。

(イ) 友達に名前を呼ばれ、一人ひとりが自分の中での最高の「はい」を言えるようになってきている。今では、毎朝一人ひとりが自分の名前を呼ばれることを楽しみにしている様子が表情からも読み取れる。事前の言葉がけに加え、生徒の返事(行動)の後に、教員が「はい、〇〇さん、今日も元気ですね」と生徒の表出を受け止めることで、生徒たちが自信を持ち自分から挨拶する姿にもつながっている。

● Bさんについて

(ア) 声を合わせるためには友達を意識して、互いに顔を見合わせる大切であることが分かってきたようで、自ら顔を上げて、友達の顔を見ながら「おはようございます」と相手に伝わる声で挨拶することができている。今後は、事前の言葉がけも、様子を見ながら減らしていくことも可能であると考えられる。

(イ) 名前を呼ばれることが嬉しい様子で、恥ずかしい気持ちから期待する気持ちへと変わってきていることが、「はい」という返事の声からもうかがえる。声も徐々に力強く、大きくなっている。事前に言葉がけをした際は、うなずき、Bさん自身が意識を高めて臨もうとしている。目標としていた言葉で元気よく「はい」と返事することができたことと評価することができる。

<授業の評価>

・ 今回の活動は生徒たちの実態から、卒業後を見据えて、社会で自立した生活を送るために今、必ず身に付けさせておきたい力とは何かを考え設定した内容である。これまでも取り組んできている内容ではあるが、生徒たち自身がなぜその力を身に付けることが必要なかを理解していなかった面もあった。しかし、その意味を意識した活動としたことで、学習に向かう気持ちや意識が高まり、生徒の変容につながったのではないかと考える。また、友達とともに取り組めたことでBさんの苦手としていたコミュニケーションや人間関係の形成の改善にも効果的であった。

・ 今後の課題としては、取組みの成果を客観的視点で視覚的に生徒が自己評価できる、また相互評価できるような工夫をすることで、より主体的な活動になると考える。指導・支援については、生徒の様子を見極めながらではあるが、支援の量を徐々に減らして、次のステージをめざせるようにしたい。

◆ 評価をもとに、どのように指導改善を図るか(次時への改善点 等)

・ 本時の学習評価を言葉だけでなく、視覚化して伝えられるよう、ICTを活用して映像として記録したものを、個人ならびに全体で共有できるように工夫していきたい。